

マスタ締日変更

処理概要

請求先または支払先のマスタの月次締日または中間・本決算月日を変更すると同時に、登録済の伝票の請求・支払締日も自動変換します。

項目説明

【対象】 請求先/支払先 より選択。初期表示は請求先
当選択は指定必須です。

ただし、支払先のマスタの締切形式が「都度支払」の場合、選択後にエラー表示し選択不可とします。
「当支払先は都度支払のため選択できません」

【コード】 請求先マスタの場合は請求先コード、支払先マスタの場合は支払先コード指定。
どちらも都度請求(支払)の取引先は指定不可。使用区分OFFの取引先は指定可。
検索画面では都度請求(支払)でない請求先または支払先のみ表示され選択可。
当コードは指定必須です。

【変更前情報】 コード指定すると、現在のマスタ情報が参考で表示されます。
中間決算、本決算、最終請求確定日は請求先マスタの場合のみ表示されます。

【変更後情報】 変更後の各情報を指定します。
初期値は変更前情報と同じ値がセットされます。
月次締日とその回収方法は指定必須です。
中間決算、本決算は請求先マスタの場合のみ入力できます。指定時は回収方法も同時指定必須です。

【変更後初回締日】 新しい締日ルールを適用する、初回の締日を指定します。

指定する締日は、変更後情報の締日条件と一致する締日となります。(条件一致しない場合は実行時エラー)

都度請求の伝票は対象外です。

当項目は指定必須となります。

最終請求確定日以前となる年月日は指定できません。(実行時エラー)

日付指定すると、以下の2行のメッセージを画面に表示します。

・1行目: 「当変更では 9999/99/99 締日以前の伝票は更新されません」

※変更前情報から、変更後初回締日未済 で最大の締日を計算し、その年月日をメッセージで表示します。

ただし、同時に指定されている変更後の中間決算および本決算月日は指定した変更後初回締日を超える年月日から適用されます。

※以下の更新処理では、この計算した「変更前最終締日」を元に伝票更新処理を行います。

・2行目: 「当変更では 9999/99/99 以降の一括税伝票、回収予定データはすべてクリアされます」

※1行目で計算した変更前最終締日の翌日をメッセージで表示します。

※以下の更新処理では、この計算した年月日以降の締日を持つ一括税伝票、回収予定データをすべて削除します。

特殊な設定例: 月次締日は変更なしで、決算日が指定なしから指定ありに変わった場合。

→ マスタを先に変更していた場合に想定されるケース。6月20日の請求(5月21日~6月20日)から変更したいが、5月30日の本決算は翌年から適用となる。

マスタ情報			
変更前情報	名称 1	心くろう販売株式会社	
	名称 2	吹田営業所	
	月次締日	20	回収方法
	中間決算	月 日	1991 翌月末振込
	本決算	月 日	
	最終締切日		最終請求確定
変更後情報	月次締日	20	回収方法
	中間決算	月 日	1991 翌月末振込
	本決算	05 月 99 日	1991 翌月末振込
	変更後初回締日	2016/06/20 を変更後の初回締日とする	
		当変更では 2016/05/20 締日以前の伝票は更新されません。	
		当変更では 2016/05/21 以降の一括税伝票、回収予定データはすべてクリアされます。	

更新処理

実行ボタンで以下の更新処理を行います。
 ※以下は請求先を例に記載します。支払先の場合も同様に処理します。

◇実行時エラーチェック

- ・必須項目の入力漏れはエラー
- ・最終請求確定日 > = 変更後初回締日 はエラー
 ※請求締切済、請求書発行済のチェックはされません。

◇マスタ更新処理

- ・指定した請求先が設定されている全得意先を対象とします。
 更新時は得意先マスタ履歴も更新します。

◇伝票更新処理

- ・変更前と変更後が同じ締日または中間・本決算月日が指定されている場合でも、以下を処理します。
 (マスタを先に変更している場合でも伝票の更新のみはできるようにするため)
- ・都度請求の伝票は対象外です。

●締日変更処理

- ・指定した請求先が設定されている全得意先を対象とします。
- ・変更前最終締日より未来の請求締日を持つ全売上传票、入金伝票を対象とします。
- ・各伝票日付から請求締日を算出して売上ヘッダ、請求累計を更新します。
 ただし、算出した請求締日が 変更前最終締日以前となる場合、変更前最終締日翌日以降で最初の請求となる請求締日をセットします。

例1) マスタを月末締から20日締に変更し、6月20日の請求書より切替えたい場合
 →変更前最終締日が2016/5/31となる。(中間決算、本決算の指定なし)

- ・5月末までは末締めで発行され、6月20日から変更される。6月20日の請求書は6月1日～20日の伝票が対象となる。
- ・以下で、5月10日の売上で締日が7月末としていた場合、6月20日に変更となる。

変更前最終締日→5末		変更後初回締日			
		6/20	6末	7/20	7末
売上日 5/10	売上日 5/25	売上日 6/10	売上日 6/25	売上日 7/10	売上日 7/25
締日 7/31	締日 5/30	締日 6/30	締日 6/30	締日 7/31	締日 7/31
↓	↓	↓	↓	↓	↓
6/20	変更なし	6/20	7/20	7/20	8/20

例2) マスタを20日締から月末締に変更し、6月末の請求書より切り替えたい場合
 →変更前最終締日が2016/6/20となる。(中間決算、本決算の指定なし)

- ・6月20日までは20日締めで発行され、6月末から変更される。6月末の請求書は6月21日から6月末の伝票が対象となる。(もし、変更前最終締日を5月20日としてしまうと、5月末の請求書から変更となるので、6月20日指定がただしい)
- ・以下で、5月10日の売上で締め日が7月20日だった場合、6月末に変更となる。

5/20		5末	変更前最終締日→6/20	変更後初回締日 6末	7/20	7末
売上日 5/10 締日 7/20	売上日 5/25 締日 6/20	売上日 6/10 締日 6/20	売上日 6/25 締日 7/20	売上日 7/10 締日 7/20	売上日 7/25 締日 8/20	
↓ 6/30	↓ 変更なし	↓ 変更なし	↓ 6/30	↓ 7/31	↓ 7/31	

例3) マスタを月末締から20日締に変更し、かつ、本決算を指定なしから6月末として、6月20日の請求書より切替えたい場合
 →変更前最終締日が2016/5/31となる。(中間決算の指定なし)

- ・5月末までは末締めで発行され、6月20日から変更される。6月20日の請求書は6月1日～20日の伝票が対象となる。6月末の請求書は6月21日～末が対象となる。
- ・以下で、5月10日の売上で締日が6月末としていた場合、変更前最終締日翌日以降で最初の請求となる6月20日となる。
- ・以下で、6月25日の売上で締日が6月末としていた場合、本来は7月20日締めに変更となるが、本決算が6月末であるので、変更なしとなる。

変更前最終締日→5末		6/20	変更後初回締日 6末	7/20	7末
売上日 5/10 締日 6/30	売上日 5/25 締日 5/30	売上日 6/10 締日 6/30	売上日 6/25 締日 6/30	売上日 7/10 締日 7/31	売上日 7/25 締日 7/31
↓ 6/20	↓ 変更なし	↓ 6/20	↓ 変更なし	↓ 7/20	↓ 8/20

例4) マスタの月次締日は20日締のまま、本決算日を指定なしから6月末にし、6月末の請求書から切替えたい場合
 →変更前最終締日が2016/6/20となる。(中間決算の指定なし)

- ・6月20日までは20日締めで発行され、6月21日から変更される。6月末の請求書は6月21日～末の伝票が対象となる。
- ・以下で、5月25日の売上で締日を7月20日としていた場合、6月末日に変更となる。

5末	変更前最終締日→6/20	変更後初回締日 6末	7/20	7末
売上日 5/25 締日 7/20	売上日 6/10 締日 6/20	売上日 6/25 締日 7/20	売上日 7/10 締日 7/20	売上日 7/25 締日 8/20
↓ 6/30	↓ 変更なし	↓ 6/30	↓ 変更なし	↓ 変更なし

●一括税伝票、回収予定データ削除

- ・指定得意先で、変更前最終締日の翌日以降の請求締日をもつ請求時一括税伝票および回収予定データは全件削除されます。
 ※ただし、都度請求の回収予定データは対象外とする
- ・当処理実行後は、ユーザが請求締切を再処理することを前提としていますので、必ず請求締切処理を行ってください。